

熊本大学教育学部附属中学校
における組織評価
自己評価書

平成 26 年 9 月 30 日
20 教育学部附属中学校

目次

I	組織の現況及び特徴と目的	3
II	その他の領域に関する自己評価 (教育研究支援・初等中等教育・男女共同参画)	6
	1. (その他：教育研究支援・初等中等教育・男女共同参画) の領域の目的と特徴	7
	2. 優れた点及び改善を要する点の抽出	9
	3. 観点ごとの分析及び p 判定	9
	4. 質の向上度の分析及び判断	36
III	管理運営の領域に関する自己評価	37
	1. 管理運営の目的と特徴	38
	2. 優れた点及び改善を要する点の抽出	38
	3. 観点ごとの分析及び判定	38
	4. 質の向上度の分析及び判断	52

I 組織の現況及び特徴と目的

1 現況

(1) 学校名：附属中学校

(2) 生徒数及び教員数（平成 26 年 5 月 1 日現在）

：生徒数 4 7 2 人、教員数（現員） 2 2 人、非常勤教員数 4 人、事務職員数 4 人

2 特徴

本校は昭和 2 2 年に熊本師範学校男子部附属中学校、熊本師範学校女子部附属中学校として開設された。本校の沿革の概略は以下のとおりである。

昭和 22 年 熊本師範学校男子部附属中学校、熊本師範学校女子部附属中学校として新設開校。

昭和 24 年 男女両部附属中学校合併し、熊本大学熊本師範学校附属中学校と改称（現、熊本市千葉城町 5 番地）。

昭和 26 年 熊本大学教育学部附属中学校と改称。

昭和 30 年 熊本大学教育学部跡地（熊本市京町本丁 5 番 12 号）に移転。

昭和 40 年 鉄筋コンクリートによる体育館建設工事竣工

昭和 41 年 各学年 1 学級増が認められ、第 1 年度として新 1 年より 4 学級、教官定員 1 人増となる。

昭和 43 年 鉄筋コンクリート 3 階建本館の工事竣工

昭和 47 年 プール（25 メートル 8 コース）新設工事竣工。

平成 7 年 コンピュータ棟竣工

平成 9 年 創立 50 周年記念式典

平成 16 年 国立大学法人熊本大学教育学部附属中学校に移行する。

平成 19 年 附中入試第 2 次選考（抽選）を廃止

平成 20 年 校舎耐震全面改修工事竣工、体育館耐震改修工事竣工

平成 24 年 タブレット型携帯端末 iPad 導入

平成 25 年 防犯カメラ 2 台設置（正門、正面玄関）。防災用備蓄倉庫設置。

また、本校は教育研究実践校としての役割を担っており、昭和 24 年度以来、実践的なかつ先導的な研究テーマを掲げ、取組を推進してきた。研究の歩みについて研究テーマを中心に以下に示す。

昭和 24 年度 総合教育計画の作成

昭和 25 年度 附中プランの作成（基底カリキュラム、展開カリキュラム）

昭和 26 年度 道徳教育計画（基礎計画編）の作成

昭和 27 年度 道徳教育計画（展開計画編）の作成

昭和 28 年度 基礎学力についての研究

昭和 29 年度 全国中学校合宿教育研究大会への参加

昭和 30 年度 附中プランの改訂

昭和 31 年度 子どもの生活意識を高めるための教育研究

昭和 32 年度 集団教育の研究

昭和 33 年度 教科の本質にたつ教材研究と学習指導法の研究

昭和 34 年度 道徳教育の実践的研究

昭和 35 年度～38 年度 改訂学習指導要領における問題点の実践的研究

- 昭和 39 年度～42 年度 授業改造を目指す学習指導法の研究
昭和 43 年度～48 年度 教材の質的研究
昭和 49 年度～52 年度 より高い教育効果を目指す指導過程の改善
昭和 53 年度～54 年度 自ら学ぶ能力の育成
昭和 55 年度～56 年度 新しい教育課程を踏まえた自ら学ぶ能力の育成
昭和 57 年度～60 年度 自ら学ぶ生徒の育成
昭和 61 年度～平成 2 年度 個の活性化をめざす授業の探求 文部省指定（昭和 63～平成 2 年）
平成 3 年度～6 年度 伸びる力を育む学校教育の創造
平成 7 年度～8 年度 豊かな創造性をはぐくむ授業（一次）
平成 9 年度～10 年度 豊かな創造性をはぐくむ授業（二次）
平成 11 年度～12 年度 豊かな創造性をはぐくむ魅力ある教育課程（一次）文部省指定（平成 11～12 年度）
平成 13 年度～14 年度 豊かな創造性をはぐくむ魅力ある教育課程（二次）
平成 15 年度～16 年度 教師の研修システムの再構築気づきから実践までの「考える力」を育成するために（一次）
平成 17 年度～18 年度 気づきから実践までの「考える力」の育成（二次）
平成 19 年度～23 年度 「ここで学びたい」～生徒の思いが実現する学校づくり～
平成 24 年度～25 年度 未来を拓く思考力・判断力・表現力」の育成 国立教育政策研究所指定（平成 24～25 年度）
平成 26 年度～ 未来を拓く力を育成する教育課程の開発 文部科学省研究開発学校指定（平成 26～29 年度）

以上のように、文部科学省や国立教育政策研究所の研究指定も受けながら、意欲的に実践研に取り組んできている。

本校の特徴として、教育学部附属学校として教育学部の小学校教員養成課程、中学校教員養成課程、養護教諭養成課程当の学生の教育実習指導の学校として、また地域をリードする教育実践研究の学校としての使命を持つとともに、地域唯一の教育学部附属の中学校として、地域・保護者からの質の高い中等普通教育を担う学校としての期待を担う学校である。

3 組織の目的

本校は、国立大学法人熊本大学の教育学部に附属して設置された学校であって、公立中学校と同様に教育基本法や学校教育法に基づく中等普通教育を行うとともに、次の使命をもっている。

○ 教育研究の学校である。

大学と共同で教育の理論的・実証的研究を行う。そのために、本校独自の教育計画による教育活動を行うことがある。

○ 教育実習の学校である。

教育学部生の教育実習の実施及びその指導にあたる。

○ 地域の学校の研究に協力する学校である。

教育研究の場として、あるいは研究会の推進役として地域社会の中等教育の振興に寄与する。教育方針として「綱領」を定めている。「真実を求めて 響きあえ たくましいからだで 響き

あえ 厳しい知性で 響きあえ 豊かな心で」である。昭和22年に発足した附属中学校も平成25年度で創立66年を迎えた。創立65周年を過ぎ、大規模改修で新しく生まれ変わった校舎の下で、新たな歴史の1ページを刻むために、生徒も教師もさらなる一步を踏み出さねばならない。また、本年度から4年間文部科学省から研究開発学校の委嘱を受け、将来の我が国の教育に資するべく研究開発を推進していく。

本校の教育の柱は、何といても附属中学校の創立以来築かれてきた精神を誤りなく次世代に渡していくために昭和41年度に成文化された「綱領」である。この綱領は、生徒一人一人が「より真なる・より善なる・より美なる」真実を求めることに大きな目標を置いたものである。「響きあえ」は、附属中学校の環境にあってお互いに交流し、愛情と尊敬と秩序を持った集団として響きあうことである。「たくましいからだ」は、まず、何をおいても健康第一であるということである。単に強い、健康なからだを持つだけでなく、困難や辛苦に耐え、己に打ち勝てるたくましが養われることが求められている。「厳しい知性で」は、表面だけの理解だけでなく、さらに深く追求していく厳しさを強調したものである。「豊かな心で」は、真実を尊び、徳義を重んじ、美を愛することのできる心の豊かさを意味するものである。

また理想の生徒像として「望ましい附中生」を設定している。「1 理屈を言うより態度で示す生徒 2 建設的な意見を尊重し、進んで作業する生徒 3 知性と情操を高め、品位を重んじる生徒 4 気力、体力を充実させ、厳しさに耐えていくたくましい生徒 5 明るく声をかけあう、すなおでおおらかな生徒」である。

これらのことを受けて、平成25年度の学校教育目標を「『響きあい』の精神の具現化のもと、お互いに学びあい、高め合う希望あふれる附属中生徒の育成」として設定し、「確かな学力の育成」「豊かな心の育成」「健やかな心身の育成」「豊かな国際性の育成」の観点から日頃の教育活動に取り組んでいる。

Ⅱ その他の領域に関する自己評価 (教育研究支援・初等中等教育・男女共同参画)

1.（その他：教育研究支援・初等中等教育・男女共同参画）の領域の目的と特徴

熊本大学教育学部附属中学校は、国立大学法人熊本大学の教育学部に附属して設置された学校であって、公立中学校と同様に教育基本法や学校教育法に基づく中等普通教育を行うとともに、次の使命をもっている。

○ 教育研究の学校である。

大学と共同で教育の理論的・実証的研究を行う。そのために、本校独自の教育計画による教育活動を行うことがある。

○ 教育実習の学校である。

教育学部生の教育実習の実施及びその指導にあたる。

○ 地域の学校の研究に協力する学校である。

教育研究の場として、あるいは研究会の推進役として地域社会の中等教育の振興に寄与する。

（1）教育研究支援

本校は、熊本県内唯一の国立大学附属中学校として県内外の教育の発展に寄与するために、先進的な教育の研究開発に努め、その成果を広めていくことを目指している。平成24・25年度は国立教育政策研究所から「教育課程研究指定校」の指定を受け、思考力・判断力・表現力の育成を目指し、学校全体としての目標設定とそれに向けて各教科等における取組の連携を図り、それらの成果を学校として評価するための実践研究に取り組んだ。特に、「A 生徒が将来、社会生活の中で自らの人生をより豊かにし、より良い社会を作っていけるようにするために、中学校段階でどのような思考力・判断力・表現力をつけておくことが必要か、研究する。」B 「Aの力の育成のために、教科等間でどのような目標設定、連携、目標実現状況の評価を行ったらいのか等について実践研究する。」ことを中心の課題に置いた。研究テーマを「未来を拓く思考力・判断力・表現力」の育成とし、平成26年2月に研究発表会を開催した。500人の熊本県内外からの参加者を得て、全教科の授業を公開するとともに研究発表も行い、各教科の「思考力・判断力・表現力」の育成についての研究成果を広く公開することができた。このことは、各中学校で取り組みが進められている学習指導要領の中で強調されている「子どもたちの思考力・判断力・表現力等を確実にほぐくむ」ことへの具体的提案ができた。また、各教科等で熊本市及び県内の各教科等の研究会からの講師依頼にも積極的に対応している。

（2）初等中等教育

「響き合い」の精神の具現化のもと、お互いに学びあい、高めあう希望あふれる附属中生徒の育成一体・知・徳の調和のとれた生徒の育成を目指すを教育目標として中学校教育に取り組んでいる。本校への進学者は各学年定員160名の内、学年熊本大学教育学部附属小学校からの連絡入学者が約90名、徒歩または公共交通機関を利用して1時間程度の地域からの他の小学校出身者が約70名程度である。

（3）男女共同参画

人権教育に取り組む中で、男女平等に関する取組も含め教育実践を行っている。

【想定する関係者とその期待】

想定される関係者として、まず在籍生徒の保護者がある。生徒達全員が高校進学希望であり、その先の大学までも視野に入れて勉学に励んでいる。生徒達及び保護者の学力向上への期待は大変強いものがある。また、勉学面だけでなく社会性や人間性を高めてもらいたいとの保護者の願いも強く、学校行事、部活動への期待も高い。

さらに、本校の卒業生も母校に対する愛情が深く、毎年同窓会が大規模に行われており、同窓生だけでなく、地域社会からの期待の声も高い。

次に、地域の教育委員会が関係者としてあげられる。熊本県教育委員会、熊本市教育委員会との人事交流を行っており、教員の研修面でのステージの一つとしての本校への派遣が位置付けられている面もあり、教科指導・教科研究の力を職員に就けて欲しいという期待とともに、本校の職員が熊本県、熊本市内の各教科のリーダーとして活躍して欲しいとの願いがある。

2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

(1) 教育研究支援

【優れた点】

平成24・25年度は国立教育政策研究所から「教育課程研究指定校」の指定を受け、研究を行い、研究発表会を開催している。また平成26年度から29年度までの4年間、文部科学省の教育研究開発学校の指定校として「21世紀を生き抜く力を育成する教育課程の開発」についての研究を行っている。加えて熊本県内、熊本市内の各教科等研究会の要請を受けて、研究成果の普及を含め、講師として講話を行っている。

【改善を要する点】

平成26年度指定の文部科学省の研究開発学校として、全国で10校の幼・小・中・高等学校が平成26年度から29年度までの4年間の指定を受け、本校研究主題「21世紀を生き抜く力を育成する教育課程の開発」についての研究を行っているが、今後この研究内容の深化に努めていく必要がある。

(2) 初等中等教育

【優れた点】

生徒、保護者の期待を受けて希望高校への進学について成果をあげている。また、教育活動の一環としての部活動にも精力的に取り組み成果をあげている。

【改善を要する点】

生徒の学力の保証・充実にさらに努めていく。

(3) 男女共同参画

【優れた点】

男女共同参画を含め、人権教育についての取組を年間2回の人権旬間を設けてその推進に努めている。

【改善を要する点】

今後とも男女共同参画を含め、人権教育についての取組を推進する。

3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目Ⅰ 教育研究支援の組織と体制が適切に整備され機能していること

観点1-1 教育課題

(観点到係る状況)

本校の教育目標達成のために、教育課程上の工夫として、学校行事への取組の強化と総合的な学習の時間の取組の工夫がある。学校行事としてその中心は三大大行事として位置付けている5月

の体育大会、10月の附中文化の日、11月の校内駅伝大会があげられる。どの行事も生徒が主体となり、響きあいの精神のもとで、各学級、1～3年生までの縦割り活動である団活動を通して、技術や仲間意識の向上を目指し取組を進めている。三大大行事ともに保護者の参観も多く、生徒の達の頑張りや成長に喜びの声をいただいている。また、総合的な学習の時間においても、「未来創造課」という縦割りの17の課を設け、学校生活をよりよいものにしていこうという課題意識の下で、問題解決的な学習を行う中で、社会人基礎力の育成に努めている。加えて平成24・25年度は国立教育政策研究所から「教育課程研究指定校」の指定を受け、研究を行い、研究発表会を開催している。平成25年度は県内外から教育関係者376名・教育学部学生81名が参加した。(資料E-1-1-1)

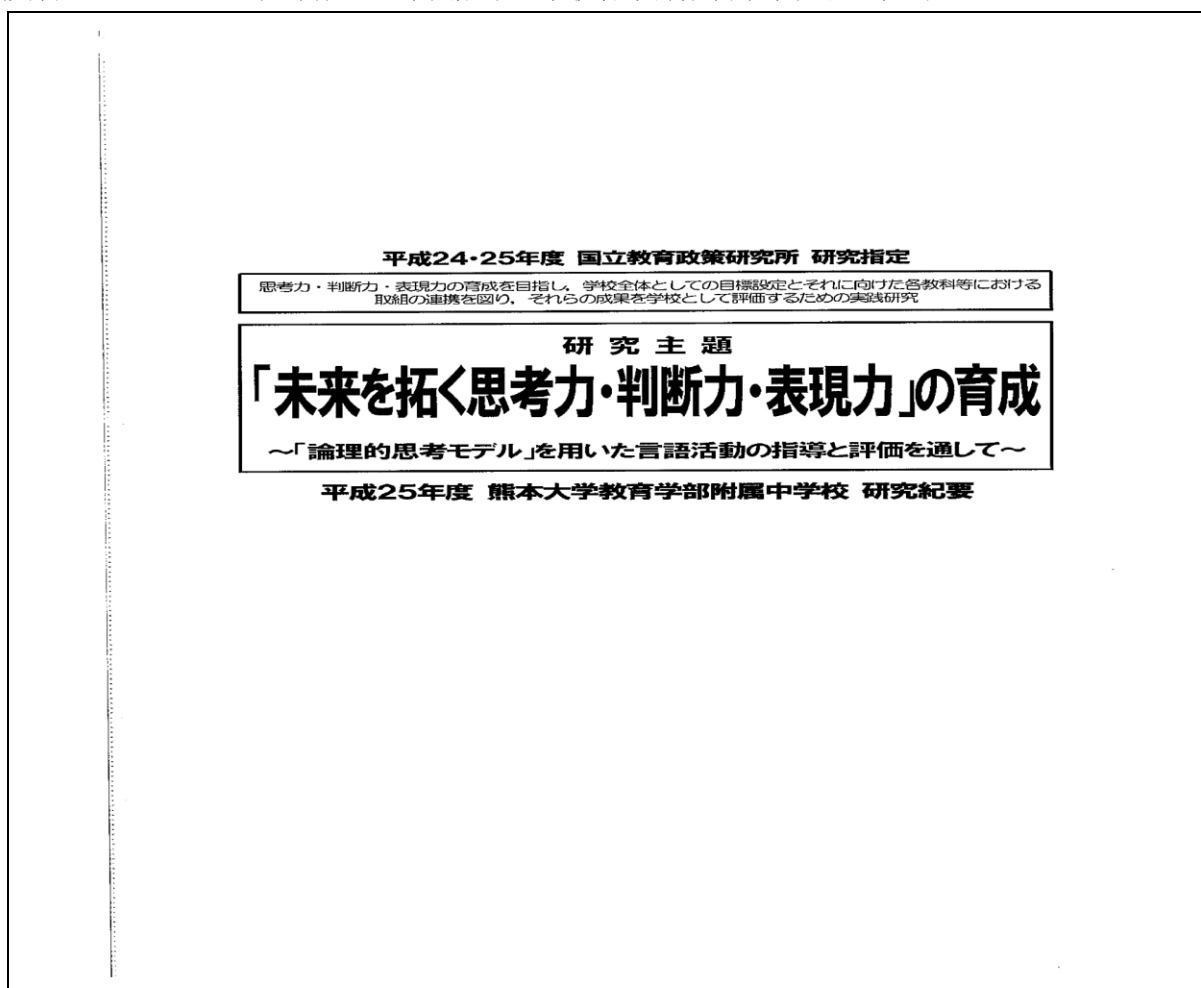
(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

各行事や総合的な学習の時間の取組の中で3年生の姿を目指し、活発に活動する下級生の姿が多数見られる。また、3年生も下級生への指導を行う中で、人間的な成長が見られる。平成25年度研究発表会には、県内外から教育関係者376名・教育学部学生81名の参加があった。

(資料E-1-1-1) 平成25年度熊本大学教育学部附属中学校研究紀要



(出典：平成25年度熊本大学教育学部附属中学校研究紀要)

(資料E-1-1-2) 平成26年度研究開発実施計画書

平成26年度研究開発実施計画書

1 研究開発課題

社会の変化に対応し未来を拓くために必要な「思考力」を育成するための新教科「思考科」(仮称)を位置付けた教育課程、思考科の指導内容、指導方法及び評価方法についての研究開発

※ 思考科の正式な名称については、平成26年度に生徒公募等を行い決定する。

2 研究の概要

本研究では、社会の変化に対応し未来を拓くために必要な教科横断的な「思考力」を育成するため、第1～3学年に「思考科」を新設する。クラス単位で行われる「思考科A」の授業でより効果的な課題解決の方法について学び、コース別グループで行われる「思考科B」の授業で協働型の課題解決活動を行う中で「思考力」を育成する。また、各教科の授業においても教科横断的な「思考力」を意識した授業を行うことで、各教科の学力もより効果的・効率的に育成する。先行研究の成果を生かした実践を通して、思考科を位置付けた教育課程、中学校学習指導要領「思考科」、指導事例集、評価規準表等を作成し、学力調査やアンケート調査、外部評価を踏まえながら、将来の中学校における「思考力」を培う教育のあり方について提言を行う。

3 研究の目的と仮説等

(1) 研究仮説

新設教科「思考科」を中心とした教育課程を通して、すべての職員で教科横断的な「思考力」を意識した取組を行うことで、学校全体で「思考力」を育成することができるだけでなく、各教科の学力をより効果的・効率的に育成することができるであろう。

(2) 必要となる教育課程の特例

- 必修教科、総合的な学習の時間の時数を削減し、新設教科「思考科」を設置する。
- 思考科は社会の変化に対応し未来を拓くために必要な教科横断的な「思考力」を育成することを目標とする。
- 思考科は第1～3学年で行い、より効果的な課題解決の方法を学ぶ中で「思考力」を育成することを目標としてクラス単位で行われる「思考科A」と、教科等の知識を活用した「思考力」の育成を目標としてコース別グループで協働型の課題解決活動を行う「思考科B」を位置づける。
- 授業時数は以下の通り。(1単位時間を、前期20時間、後期15時間とした場合)
 - 第1学年 前期：思考科A (15時間)
後期：思考科A (10時間)、思考科B (15時間)
 - 第2学年 前期：思考科A (15時間)、思考科B (20時間)
後期：思考科A (10時間)、思考科B (15時間)
 - 第3学年 前期：思考科B (20時間)
後期：思考科B (15時間)
- 既存の教科の授業時数からの変更は、以下のように行う。
 - 第1学年：必修教科から25時間、総合的な学習の時間より15時間を削減し、40時間を確保する。
 - 第2学年：必修教科から25時間、総合的な学習の時間より35時間を削減し、60時間を確保する。
 - 第3学年：総合的な学習の時間より35時間を削減し、35時間を確保する。
- 各教科の学習指導要領等を分析して教科横断的な「思考力」の育成に関連する項目を洗い出し、思考科で学習する内容と教科の学習で行う内容を整理することで、教科の学習時間の削減によって教科内容の不足が生じることがないようにする。

(3) 研究成果の評価方法

- 研究成果の評価は「生徒の評価」と「教育課程の評価」の2つの観点から行う。
- 「生徒の評価」に関しては、研究1年次に、国立教育政策研究所の「特定の課題に関する調査(論理

総論

「未来を拓く思考力・判断力・表現力」の育成

～「論理的思考モデル」を用いた言語活動の指導と評価を通して～

1 指定研究課題と研究内容

国立教育政策研究所
研究指定課題

(1) 指定研究課題

本校は、平成24・25年度の2年間、国立教育政策研究所の研究指定校として「思考力・判断力・表現力の育成」についての研究を行っている。指定研究課題は次の通りである。(下線部筆者)

【平成24～25年度 教育課程研究指定校事業 指定研究課題】

思考力・判断力・表現力の育成を目指し、学校全体としての目標設定とそれに向けて各教科等における取組の連携を図り、それらの成果を学校として評価するための実践研究

○ 各教科、特別活動、総合的な学習の時間での目標、指導を踏まえつつ、学校全体で、特定の教科等に限らない_A社会生活全般で活動していく上での思考力・判断力・表現力を育成する際に、_Bどのような目標設定とするのか、そのために教科等間でどのような連携等が行えるのか、目標実現状況の評価をどのように行ったらよいか等を実践研究する。

課題に対する
本校の研究内容

(2) 研究内容

本校では、指定研究課題の下線部A、Bの部分を重視し、次のことについて研究する。

- ① 社会生活全般で活動していくためには、どのような思考力・判断力・表現力が必要か。
- ② ①の思考力・判断力・表現力の育成のために、学校全体としてどのような取組が有効か。

① これからの社会に必要な思考力・判断力・表現力

これまでの社会では、学校で教えられた、あるいは社会の中で常識となっている知識・技能を身に付け、それらを「再生」するだけでも生きていくことができた。しかし、価値観が多様化し、変化も大きいこれからの社会では、様々な問題に対して自分の考えを持って状況に応じて行動し、よりよい人生、よりよい社会を築いていく(未来を拓く)ことが必要である。

そのためには、学校教育の中で、生徒が既存の知識や技能や様々な情報のもとに思考して判断し、それらについて表現する力、すなわち「思考力・判断力・表現力」の質を高めることが必要である。本校では、未来を拓くために必要な質の高い思考力・判断力・表現力として、次のような「未来を拓く思考力・判断力・表現力」の育成を目指す。

観点1-2 大学・学部との連携

(観点に係る状況)

教育実習に係る連携を各教科が学部の各学科と綿密に行うとともに、各学科の求めに応じ教科教育に関する学生への講話等を行っている。また、教育研究においては、文部科学省の教育研究開発学校に係る運営指導委員を学部の教授4名に依頼している。さらに「新学習指導要領シンポジウム」(資料E-1-2-1)において各教科の職員が教育学部の各学科の教員と連携して研究を進め、シンポジウムの各分科会等で発表を行っている。(資料E-1-2-2)また、毎年行っている本校研究発表会では熊本大学教育学部の教授・准教授・講師に依頼して指導・助言を受けている。(資料E-1-2-3～E-1-2-4) (中期計画番号64)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

本校の各教科の職員が積極的に学部の教員と連携しながら、教育実習の充実、連携した研究の推進に努めている。

(資料E-1-2-1) 新学習指導要領キックオフシンポジウム冊子

新学習指導要領キックオフシンポジウム 第2弾

— 論理的思考力・表現力育成のためのカリキュラム開発 —
教科間連携、幼・小・中連携を視野に入れて

期日／2012. 3. 3 (土) 12:30～16:50
会場／熊本大学工学部百周年記念館、工学部2号館

主催／熊本大学教育学部
共催／熊本市教育委員会
後援／熊本県教育委員会



(出典：新学習指導要領キックオフシンポジウム冊子)

(資料E-1-2-2) 新学習指導要領キックオフシンポジウム国語分科会報告

国語科教育分科会

言語活動を支える論理的思考力・表現力の育成に関する実践提案と評価

河野 順子 (熊本大学教育学部)

井上伸円・下中一平・坂崎慎太郎(熊本大学教育学部附属小学校)
 有田和秋・田上貴昭・沖田史佳(熊本大学教育学部附属中学校)
 国語教育湧水の会 原慧美香(熊本市立城山小学校) 尾崎弘尚・
 梅田博子(熊本市立田迎小学校) 大塚真美(熊本市立帯山西小
 学校) 田邊友弥(熊本市立隈庄小学校) 河野ゼミ4年生・院生
 古田亮熊本県教育委員会義務教育課指導係長兼主幹
 上妻昭仁熊本市教育委員会指導主事

I. 発表構成

国語科の分科会では、「言語活動を支える論理的思考力・表現力の育成に関する実践提案と評価」というテーマで実践発表を行った。昨年度、論理的コミュニケーション能力のカリキュラム案と実践提案を行ったので、本年度は、論理的思考力、論証能力育成のための説明的文章の学習指導と評価のあり方について、小・中連携による実践提案を行った。

まず、河野より、新学習指導要領で目指されているこれからの説明的文章の学習指導の方向性について話をした。次に、小学校・中学校に渡る実践提案を附属小学校の井上先生、下中先生、国語教育湧水の会の原慧美香先生、尾崎弘尚先生、梅田博子先生、大塚真美先生、田邊友弥先生、河野ゼミ4年生の深水綾子さん、古木優麻さん、中原祐輔さん、荒木優作さん、西浩伸さん、平田絢香さん、牧浩明さん、星川水咲さん、佐藤友香さんによる発表、模擬授業型提案、院1年の古賀洋一さんと附属中学校の田上貴昭先生との共同研究発表を行った。

最後に熊本県・熊本市における国語事情について古田熊本県教育委員会指導課指導係長兼主幹、上妻昭仁熊本市教育委員会指導主事にお話をいただいた。

II. 発表内容

国語科教育では、トウルミンの根拠—理由づけ—主張の三角ロジックを論証能力の基盤理論として捉え、論証能力、論理的思考力の幼・小・中の連携の中で究明を行っている。

説明的文章の学習指導を通して育てるべき論理的思考力は、次のように考えることができる。これは、昨年度提案を行った論理的コミュニケーション能力のカリキュラム案と当然のことながら、重なりながら、独自性を持つ。

低学年	順序を捉える力	対比する力	観点を捉える力	
中学年	分類する力	類比する力	具体から一般化する力	
高学年	分析する力	類推する力	推論する力(帰納・演繹)	批判する力
中学校	▼	▼	▼	▼ 総合する力

(資料E-1-2-3) 平成26年度研究開発実施計画書「5 研究組織」

5 研究組織

(1) 研究組織の概要

学校長と副校長および研究部員6名で企画し、全教員で研究を推進する。大学教員と教育関係者が運営指導委員として指導にあたる。研究過程で、それぞれの研究部員が核となり、各単元の効果について検証を行い、校内研究会で成果を共有する。実践においては思考科専任の専任講師と協力して、全教員が共通の認識を持って研究に取り組むことができるようにする。

(2) 研究担当者

職名	氏名	担当学年・担当教科
教諭	○田上 貴昭	3年・国語
	坂田 孝久	3年・理科
	日方 和光	3年・数学
	澤田 昌宏	1年・数学
	佐伯 綱義	2年・社会
	三浦 寿史	1～3年・技術家庭(技術分野)

(3) 運営指導委員会

①組織

氏名	所属	職名	備考(専門分野)
・西岡 加名恵	京都大学大学院教育学研究科	准教授	資質・能力, 教育評価
・福島 和洋	熊本大学教育学部	教授・副学部長	理科(物理学)委員長
・山本 信也	熊本大学教育学部	教授	数学教育
・長濱 茂喜	熊本大学教育学部	特任教授	元県立教育センター所長
・中山 玄三	熊本大学教育学部	教授	教育課程
・塩村 勝典	熊本県教育委員会義務教育課	指導主事	英語教育
・松島 孝司	熊本市教育委員会指導課	主任指導主事	社会科教育
・上妻 昭仁	熊本市立錦ヶ丘中学校	校長	公立中学校長
・志波 典明	熊本大学教育学部附属小学校	副校長	附属小学校副校長

②活動計画

平成26年 6月6日 第1回運営指導委員会

- ・研究指定内容についての説明(研究主任)
- ・研究の方向性についての提案(研究主任)
- ・運営指導委員会からの指導助言

平成26年11月25日(予定) 第2回運営指導委員会

- ・平成27年度以降の教育課程について提案
- ・思考科A, Bの内容, 単元, 教材についての提案
- ・運営指導委員会からの指導助言

平成27年 2月23日(予定) 第3回運営指導委員会

- ・思考科A研究授業
- ・平成27年度以降の教育課程について提案
- ・平成27年度教育課程実施上の留意点について検討
- ・運営指導委員会からの指導助言

(出典：平成26年度研究開発実施計画書)

(資料E-1-2-4) 熊本大学教育学部附属中学校平成25年度研究発表会案内

国立教育政策研究所 平成24・25年度研究指定〔2年次〕

熊本大学教育学部附属中学校 平成25年度研究発表会〔2次案内〕

「未来を拓く思考力・判断力・表現力」の育成
～「論理的思考モデル」を用いた言語活動の指導と評価を通して～

「考え」を



「広げる」



「深める」



「活かす」

主催 熊本大学教育学部附属中学校
後援 熊本県教育委員会 / 熊本市教育委員会 / 熊本県教育振興財団 / 熊本県教育会

日時 平成26年(2014年)2月22日(土) 9:00~16:15

会場 熊本大学教育学部附属中学校
〒860-0081 熊本県熊本市中央区京町本丁5番12号
電話 096-355-0375 FAX 096-355-0379

資料代 一般 2000円 / 学生・院生(要領除く) 1000円

日程



※ 移動時間は15分程度を想定しております。

お問い合わせ 不明な点はどうぞお尋ねください。 研究主任 山上 真昭 (たのうえ たかあき)
〒860-0081 熊本県熊本市中央区京町本丁5番12号 電話 096-355-0375 FAX 096-355-0379
URL <http://www.kumamoto-u.ac.jp/> メールアドレス czrouc-t@educ.kumamoto-u.ac.jp

(出典：熊本大学教育学部附属中学校平成26年度研究発表会案内)

観点1-3 附属学校園の役割・機能の見直しの観点から、附属学校園の目的を十分に果たしているか

(観点に係る状況)

大学・附属学校間の組織的な連携体制の強化と学校運営の充実を図り、独自の教育実践研究を推進する点に関して、文部科学省の教育研究開発学校に係る研究並びに「新学習指導要領シンポジウム」に係る取組についても連携して行っている。また、熊本県・熊本市教育委員会との連携の強化については、教育実践研究の成果を本校の研究発表会の実施や研究紀要の配布、各地域の各教科等の研究会の要請に応え講師として研究成果の普及に努めている。(中期計画番号65, 66)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

学部の教員と連携した研究の推進や研究成果の公表、研究紀要の発行、地域の教育研究への貢献を行っているため。

分析項目Ⅱ 初等中等教育

観点2-1 入学者選抜方法

(観点に係る状況)

選抜方法は、筆記テスト(国語・算数・社会・理科)及び入学願・調査書・自己申告書等の書類審査等を行い、総合的に判定して合否を決定している。(資料E-2-1-1~E-2-1-2)
(中期計画番号64)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

国語、算数を各40点、社会、理科を各30点、調査書・自己申告書等を40点で採点し、ペーパーテストで図れる学力以外の小学校の時の活動状況も点数化し、合否判定の材料としている。また、附属小学校からは連絡入学を実施し、小学校からの具体的な連絡事項を参考に、試験結果と併せて合否判定を行い、約90名の児童が入学してきている。また、附属小学校からの連絡入学を含め、1学年定員160名に対し、平成25年度は336名の出願者があった。

(資料E-2-1-1)平成26年度入学者選考結果(最終)

平成26年2月10日現在
熊本大学教育学部附属中学校

平成26年度 入学者選考結果(最終)

	男 子			女 子			合 計		
	一般	附属小学校	計	一般	附属小学校	計	一般	附属小学校	計
志願者	139	49	188	100	48	148	239	97	336
受検辞退者 (当日欠席者を含む)	2	1	3	2	2	4	4	3	7
受検者	137	48	185	98	46	144	235	94	329
合格者	33	47	80	35	45	80	68	92	160
不合格者	104	1	105	63	1	64	167	2	169
入学辞退者	6	0	6	2	0	2	8	0	8
追加合格者	6	0	6	2	0	2	8	0	8
最終合格者	33	47	80	35	45	80	68	92	160

(出典：平成26年度入学者選考結果(最終))

(資料E-2-1-2) 平成26年度生徒募集要項

平成26年度 生徒募集要項

熊本大学教育学部附属中学校

本校は公立中学校と同様に中等普通教育を行うとともに、熊本大学教育学部の附属学校として、教育学部との連携のもと、教育の理論的・実証的研究及び教員養成を目的とした教育実習にあたる使命を持つ学校でもあります。そのため、本校独自の教育計画による教育活動を行うことがあります。

このような本校の性格及び教育方針を十分理解された上で志願してください。

- 1 募集人員 160名(男子80名 女子80名)
 - ・ ただし、熊本大学教育学部附属小学校からの連絡入学者を含みます。
- 2 志願資格 次のすべての項目に該当しなくてはなりません。
 - (1) 平成26年3月小学校卒業見込みの者。
 - (2) 生活の本拠地に保護者と同居する者。本校入学のための寄留や下宿は認めません。
 - (3) 熊本県内に居住し、通学所要時間が最大1時間程度で、8時15分までに登校可能な者。
 - ・ 通学方法は、徒歩または公共交通機関に限ります。ただし、特急列車及び新幹線での通学は認めません。
 - (4) 上記の(2)(3)については、入学後卒業までの3年間を通じての在籍資格となります。
 - ※ 県外等居住者が出願する場合は、保護者の転勤見込証明書等を出願時に添付してください。
 - (5) 保護者が生徒募集説明会に出席し、本校の性格及び教育方針を十分理解し、賛同した者。保護者の出席のない場合は、志願資格はないものとします。
- 3 生徒募集説明会

志願者の保護者は、生徒募集説明会に必ず出席すること。(事前申込の必要はありません)

 - (1) 第1回生徒募集説明会及びオープンスクール 平成25年11月2日(土)
 - ・ 会場 本校体育館 受付：14時00分～ 開会：14時30分 閉会：16時00分(予定)
 - ・ 説明会にて出願に必要な書類等を配付します。説明会以外での配付はしません。
 - ・ 14時30分以降は、会場に入れません(時間厳守)。
 - (2) 第2回生徒募集説明会 平成25年11月5日(火)
 - ・ 会場 本校視聴覚室(西棟2階) 受付：14時00分～ 開会：14時30分 閉会：16時00分(予定)
 - ・ 第1回生徒募集説明会に出席できなかった保護者対象(説明内容は第1回と同じです。ただし、オープンスクールは行いません)。
- 4 出願手続
 - (1) 出願に必要な書類及び検定料
 - ア 入学願……………在籍小学校長の証明を受けたもの。なお、志願者氏名は、正確な字体で記入し、成績の開示希望の有無を必ず記入すること。
 - イ 調査書……………在籍小学校で作成し、小学校長が証明・厳封したもの(親展扱い)。
 - ウ 自己申告書……………自己申告書に記載した資格・賞等については、証明する原本の写しを添付すること。
 - エ 写真票・入学志願者票……………志願者氏名のみを記入し、写真に在籍小学校長の職印を割印したもの。
 - オ 領収証書・領収証書(控)……………志願者氏名のみを記入したもの。
 - カ 通知用封筒……………志願者本人の住所・氏名・郵便番号を記入し660円切手を貼ったもの。
 - キ 検定料……………5,000円。いったん受理した検定料は、理由のいかんを問わず返付しません。
 - ク その他の必要な書類……………保護者の転勤見込証明書(県外等居住者の場合のみ)等。
 - (2) 出願書類の提出方法
 - ・ 保護者は出願に必要な書類及び検定料を、出願期間内に所定の出願場所へ直接提出し、「入学志願者票」を受け取ること。郵送による出願はできません。
 - ・ 熊本大学教育学部附属小学校からの志願者は、附属小学校長を通じて提出すること。
 - (3) 出願期間 平成25年12月3日(火)～12月5日(木)まで
 - 受付時間 9時～正午、13時～16時(時間厳守)
 - (4) 出願場所 本校コンピュータ棟2階
 - (5) その他
 - ・ 提出書類に虚偽の記載があった場合は、志願資格、合格及び入学を取り消します。

5 選考

(1) 選考方法

- 筆記テスト（国語・算数・社会・理科）及び入学願・調査書・自己申告書等の書類審査等を行い、総合的に判定して合否を決定します。

(2) 選考当日の日程及び内容

平成26年1月12日（日） 8時00分 各検査場集合（検査場の場所等は当日生徒昇降口に掲示）

時 間	時 限	筆記テスト科目	持参するもの
8:00～8:30 (30分)	点呼・諸注意		・入学志願者票 ・上履き
8:50～9:35 (45分)	第1限	国 語	・下足を入れる袋 ・鉛筆（シャープペンシルも可）
9:55～10:40 (45分)	第2限	算 数	・消しゴム ・三角定規一組（直定規も可）
11:00～11:35 (35分)	第3限	社 会	・コンパス
11:55～12:30 (35分)	第4限	理 科	※分度器（分度器付定規を含む）、時計、携帯電話の持ち込みはできません。

※ 選考当日は、志願者及び保護者以外は校内に立ち入ることはできません。

(3) 選考結果の通知 平成26年1月17日（金）

- 志願者本人及び在籍小学校長宛に郵送により通知します。
- 合否・追加合格等についての電話等による問い合わせにはお答えできません。なお、成績の開示については別紙の要領にて行います。

(4) 追加合格

- 欠員が生じた場合は、追加合格を実施する場合があります。
- 追加合格者の保護者には、平成26年1月22日（水）以降、追加合格の連絡を電話にて行います。

6 入学手続

次のとおり、(1)誓約書の提出及び(2)入学許可証の交付をもって入学許可とします。(1)(2)の入学手続を行わなかった者は、入学資格を失いますので、必ず入学手続を行ってください。

(1) 誓約書の提出

- 合格者の保護者は、誓約書を次の受付期間内に本校事務室へ直接持参すること。
受付期間 平成26年1月20日（月）～1月21日（火）まで
受付時間 9時～正午、13時～16時（時間厳守）
- 追加合格者の誓約書の受付については、別途連絡します。
- 万が一やむを得ない事情により入学を辞退する場合は、保護者が誓約書に代えて、別様式「入学辞退届」を1月21日（火）16時までに本校事務室へ直接持参願います。その際、合格通知書、入学志願者票を持参してください。届を確認の上、入学資格を取り消します。

(2) 入学許可証の交付

- 入学許可証交付式 平成26年1月25日（土）10時00分 開会予定
- 当日は、必ず合格者本人及び保護者が出席すること。欠席者は、入学を許可しません。
- 合格通知書、入学志願者票を持参すること。詳細は合格通知と併せて連絡します。

7 その他

- (1) 生徒募集説明会、選考当日、入学許可証交付式は運動場を駐車場として開放しますが、スペースに限りがありますので、混雑を避けるためできるだけ公共交通機関を利用してください。
- (2) 上履き、下足を入れる袋は各自持参してください。
- (3) 自然災害や悪天候による交通機関の不通等のために選考当日の日程等を変更する場合は、本校ホームページ（<http://www.kumamoto-fuchu.ed.jp/>）により、当日6時30分までに発表します。電話等による問い合わせは、ご遠慮ください。

【 出願に関する問い合わせ先 】

熊本大学教育学部附属中学校 事務室
〒860-0081 熊本市中央区京町本丁5-12
電 話 096-355-0375(代表)
ファックス 096-355-0379

観点2-2 在校生の状況

(観点に係る状況)

高等学校進学者希望者がほとんどであり、卒業時には全員が高等学校に進学している。(資料E-2-2-1) また部活動においても、中体連九州大会に男子ソフトテニス部、全日本合唱コンクール九州大会にコーラス部が平成25年度には出場するなど、生徒達は各部活動で熱心に活動している。

(中期計画番号64)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

生徒達の勉学に対する姿勢や進学状況また部活動等の生徒の活躍状況が良好なため。

(資料E-2-2-1) 平成26年3月中学校卒業生進路状況調査票

平成26年3月中学校卒業生進路状況調査票(その1)

学校名 (熊本大学教育学部附属中学校)
 電話番号 (096-355-0375)
 記入者氏名 (澤田 昌宏)

①県内公立高等学校 全日制 (特別支援学校含む)					②県外公立高等学校					③私立高等学校					④特別支援学校										
区域	学校名	普通	男	女	計	区域	学校名	普通	男	女	計	区域	学校名	普通	男	女	計	区域	学校名	普通	男	女	計		
熊本	津々堂	普通	3	2	5	熊本	南関	普通(情報)			0	球磨	人吉	普通			0	特別	盲	高等部			0		
	第一	普通	44	41	85			〃(美術工芸)			0		〃五木分校	普通			0	特別	熊本健	高等部			0		
		普通	1	1	2			〃(ホビー)			0		多良木	普通			0	特別	ひのくに	高等部			0		
		〃(芸術)		1	1			〃(ホビー)			0			〃(体育)			0	特別	熊本支援	高等部			0		
	第二	普通	3	2	5		五名工業	機械			0			〃(福祉教育)			0	特別	熊本支援	高等部			0		
		理数	1	1	2			電気			0			〃(総合)			0	特別	熊本支援	高等部			0		
		美術			0			電子			0			総合ビジネス			0	特別	熊本支援	高等部			0		
	熊本西	普通			0			工業化学			0			情報処理			0	特別	熊本支援	高等部			0		
		〃(体育)			0			土木			0			国際教育			0	特別	熊本支援	高等部			0		
		理数			0			北 萩	普通(人文)			0		球磨工業	機械			0	特別	熊本支援	高等部			0	
	熊本北	普通			0				ビジネスマネジメント			0			電気			0	特別	熊本支援	高等部			0	
		理数			0				国際科学			0			建築(建築)			0	特別	熊本支援	高等部			0	
		芸術			0				造園			0			〃(伝統建築)			0	特別	熊本支援	高等部			0	
	東 稜	普通			0				家政科学			0			建設工学			0	特別	熊本支援	高等部			0	
		〃(国際)			0			荒尾玉名	計	0	0	0		南 萩	生産科学			0	特別	熊本支援	高等部			0	
		〃(理数)			0				計	0	0	0			園芸科学			0	特別	熊本支援	高等部			0	
	湧心館	普通	1		1	熊本			普通			0			環境工学			0	特別	熊本支援	高等部			0	
		情報処理			0				〃(体育)			0			食品科学			0	特別	熊本支援	高等部			0	
		商業			0				〃(美術)			0			生活情報			0	特別	熊本支援	高等部			0	
	熊本商業	商業			0				〃(芸術)			0			普通(総合)			0	特別	熊本支援	高等部			0	
		情報処理			0				商業			0			球磨計	0	0	0	特別	熊本支援	高等部			0	
		国際経済			0				商学			0			天草	普通			0	特別	熊本支援	高等部			0
		会計			0				〃(体育)			0			〃倉岳校	普通			0	特別	熊本支援	高等部			0
		機械			0				〃(美術)			0			牛 深	普通			0	特別	熊本支援	高等部			0
	熊本工業	電気			0				理数			0			〃(文科)			0	特別	熊本支援	高等部			0	
		電子			0				〃(芸術)			0			上天草	普通			0	特別	熊本支援	高等部			0
		工業化学			0				商業			0			情報会計			0	特別	熊本支援	高等部			0	
		繊維工業			0				情報管理			0			福祉			0	特別	熊本支援	高等部			0	
		建築			0				機械			0			河 浦	普通			0	特別	熊本支援	高等部			0
		材料技術			0				電気			0			天草工業	園芸科学			0	特別	熊本支援	高等部			0
		インターネット			0				電子機械			0				機械			0	特別	熊本支援	高等部			0
		情報システム			0				施設園芸			0				電気			0	特別	熊本支援	高等部			0
		農業			0				食品工業			0				土木			0	特別	熊本支援	高等部			0
	熊本農業	園芸・果樹			0				生活科学			0			天草計	0	0	0	特別	熊本支援	高等部			0	
		畜産			0				菊池農業	農業		0				芥 明	普通			特別	熊本支援	高等部			0
		農業経済			0					園芸		0				商業			0	特別	熊本支援	高等部			0
		農業土木			0					園芸		0				園芸科学			0	特別	熊本支援	高等部			0
		食品工業			0					適度科学		0				食品科学			0	特別	熊本支援	高等部			0
		生活			0					食品化学		0				食品科学			0	特別	熊本支援	高等部			0
	必由館	普通			0					生活文化		0				生活情報			0	特別	熊本支援	高等部			0
		普通(国際)			0					総合学科		0				普通(総合)			0	特別	熊本支援	高等部			0
		〃(芸術)			0				翔 陽	計	0	0	0		海洋開発(海洋)			0	特別	熊本支援	高等部			0	
		〃(美術)			0					計	0	0	0		〃(製法)			0	特別	熊本支援	高等部			0	
		〃(国際経済)			0				阿蘇中央	普通			0		水産食品			0	特別	熊本支援	高等部			0	
		〃(情報)			0					総合ビジネス			0		天草計	0	0	0	特別	熊本支援	高等部			0	
		〃(情報)			0					農業食品			0			水産食品			0	特別	熊本支援	高等部			0
		〃(国際)			0					グリーン環境			0					0	特別	熊本支援	高等部			0	
		〃(総合)			0					社会福祉			0					0	特別	熊本支援	高等部			0	
		〃(経営情報)			0					社会福祉			0					0	特別	熊本支援	高等部			0	
	熊本計		53	47	100				小 国	普通			0					0	特別	熊本支援	高等部			0	
		宇城			0					高 森	普通			0					0	特別	熊本支援	高等部			0
		松 橋			0					阿 蘇	計	0	0	0				0	特別	熊本支援	高等部			0	
		〃(体育)			0						八代	普通			0			0	特別	熊本支援	高等部			0	
		情報処理			0							八代清流	普通			0			0	特別	熊本支援	高等部			0
		家政			0							八代東	普通(体育)			0			0	特別	熊本支援	高等部			0
		建築			0								商業			0			0	特別	熊本支援	高等部			0
		土木			0								情報会計			0			0	特別	熊本支援	高等部			0
		設備工業			0								普通			0			0	特別	熊本支援	高等部			0
		情報電子			0								商業			0			0	特別	熊本支援	高等部			0
		普通			0								機械			0			0	特別	熊本支援	高等部			0
		普通(芸術)			0								〃(建築)			0			0	特別	熊本支援	高等部			0
		電子機械			0								園芸			0			0	特別	熊本支援	高等部			0
		普通			0								工業化学			0			0	特別	熊本支援	高等部			0
		〃(福祉教育)			0								インターネット			0			0	特別	熊本支援	高等部			0
		ビジネス情報			0								情報技術			0			0	特別	熊本支援	高等部			0
		普通			0								国際科学			0			0	特別	熊本支援	高等部			0
		農業科学(農業科学)			0								食品科学			0			0	特別	熊本支援	高等部			0
		〃(食・生活)			0								農業工学			0			0	特別	熊本支援	高等部			0
		緑科学(林業)			0								福祉家庭			0			0	特別	熊本支援	高等部			0
		〃(みどり活用)			0								〃(福祉)			0			0	特別	熊本支援	高等部			0
		宇城上益城計	0	0	0								〃(福祉)			0			0	特別	熊本支援	高等部			0
	荒尾																								

平成26年3月中学校卒業生進路状況調査票（その3）

学校名（ 熊本大学教育学部附属中学校 ）

1 県外の国・公立高等学校への進学者

調査票(その2)の⑦に記入した県外(海外を除く。)の国公立高等学校(全日制)及び特別支援学校高等部について記入する。

都道府県	学校名	学科・コース名	進学者数		
			男	女	計
合 計					

2 県外の私立高等学校への進学者

調査票(その2)の⑩に記入した県外(海外を除く。)の私立高等学校(全日制)について記入する。

都道府県	学校名	学科・コース名	進学者数		
			男	女	計
佐賀	弘学館高等学校	普通科	1	1	2
佐賀	早稲田佐賀高等学校	普通科	1	1	2
福岡	久留米大学附設高等学校	普通科	1		1
鹿児島	ラ・サール高等学校	普通科	2		2
兵庫	灘高等学校	普通科	1		1
合 計			6	2	8

3 次年度進学希望者調べ

調査票(その2)の⑭、⑮に該当する者のうち、平成27年度に高等学校へ進学を希望すると確認された者(いわゆる中学浪人)の数を記入する。

男	女	計

(出典：平成26年3月中学校卒業生進路状況調査票)

観点2-3 教育課程の編成

(観点に係る状況)

学習指導要領に基づき、標準授業時数を上回る授業時数の確保を行っている。また、本校の3大行事である「体育大会」「合唱コンクール」「校内駅伝大会」に特に力を入れ、1年生から3年生までの縦割り活動である団活動を中心に、取組を展開している。(資料E-2-3-1～E-2-3-2) (中期計画番号64)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

教育目標である「響きあい」の精神の具現化を目指して、特に学校行事に力を入れている。年間計画に生徒の主体的な活動の時間・準備の時間を位置付けたり、日課の工夫により効果があがっている。また学校行事に対する保護者の参加も多く、また生徒の頑張る姿を見ての感想も好評のものがほとんどである。

(資料E-2-3-1) 平成26年度 第1回学校評議員会懇談・協議記録

平成26年度 第1回学校評議員会 懇談・協議
記録 (坂田孝久)

【参加者】
学校評議員 松岡謙二・岩津昭夫・林田淳子・小澄正敬・山部治子 [敬称略]
学校職員 学校長・副校長・教頭・主幹教諭・事務係長
【欠席者】 岡本良介 [敬称略]

	10:50～
副校長	<p>1 学校からの説明</p> <p>(1) 学部、附属学校運営委員会の資料 (資料:「熊本大学」) より 附属学校に関する目標を達成するための措置について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 大学・附属学校間の組織的な連携 ○ 教育実習のカリキュラム開発 ○ 県・市教委との連携 <p>(2) 資料をもとに説明 (資料:学校からの説明資料) より</p> <p>① 本年度の取組の重点事項について</p> <p>ア 研究の推進及び授業の改善・提案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本年度から4年間の文部科学省の研究開発学校の指定を受けることになった。現在学習指導要領の枠を超えて新教科を作る研究を進めているところである。 ・ 次の学習指導要領の改訂の資料、またはもう一つ先の学習指導要領の資料となる。 ・ 本年度は9月に研究発表会を行って、その後も研究開発の資料を作成をしていく。 ・ 研究発表会では安彦先生を講師としてお招きする予定である。また、研究図書を発行する予定である。 ・ さらに、60インチのTVモニターを設置予定である。 <p>イ 教育実習の検討と充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度4年次実習Ⅱにおいて行事観察を設定した。 <p>ウ 安全な学校作りの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 脅迫事案の驚異が続いている。心配なのは四附交流会の前である。 ・ 各行事で入構チェックを厳しくする。 ・ 名札の着用をお願いしている。 ・ 災害用の備蓄倉庫の設置を行った。 ・ 響き合いメールについては、本年度も引き続き情報発信及び管理を行っていく。 ・ 体育館改修について、及び運動場のトイレ・水道の設置の要望を引き続き行いたい。

- エ 小中連携の取組の推進
 - ・ 昨年度から質の高い熊大方式の小中連携を取り組んでいる。
 - ・ そうじについても小中連携の取組を行う予定である。
 - ・ 常勤講師について学部に要請をしているところである。
- オ 豊かな心の育成
 - ・ スクールカウンセラーは保健センターからカウンセラーお一人を、ユアフレンドはお二人を派遣いただくことになった。
 - ・ 学びの交流会については、本年度3年生対象に行う。
 - ・ 先輩と夢を語る会に向けてオリンピック選手の中川選手に話を進めているところである。
 - ・ いじめの防止についての取り組みについては、本校では、いじめアンケートを行い対応している。現在、いじめを受けている訴えているという生徒はいない。
- カ 学校及び生徒の様子について
 - ・ 体育大会のご出席ありがとうございました。
 - ・ 授業も集中している様子をごらんいただけただけではないかと思う。
 - ・ 現在、保健室登校（2年・3年 男女1・1）、別室登校（男子1名 図書室）、不登校傾向の生徒が一人いる状況である。
- キ その他
 - ・ 今後ご案内する行事として、研究発表会（9/14）、附中文化の日（10/17）、第2回学校評議員会（2/26）、平成26年卒業式（3月）がある。卒業式は、先日入試の日程が発表されたので、決まってからお伝えする予定である。
 - ・ 学部・附属の運営協議会は松岡先生に本年度もお願いしたい。

松岡 顔も割と知っているので、お受けします。

2 質疑応答・意見交換

林田 4年間の指定とは何か。

副校長 文部科学省の研究開発学校の指定を受けた。これは教育課程の法的な縛りをうけない。今年度は全国で10程度の学校が指定を受けている。附属学校で指定を受けているのは9校。

林田 それは先生方はたいへんなのか。

副校長 教科書が何もないので、計画して作成し授業を行い、報告を出すということになる。なかなかこの研究指定は受けられないので職員にはいい経験になるのではないと思う。

松岡 教科とは何か。

副校長 思考科（仮称）である。

松岡	先日ラジオで佐々木さんがそのようなことを伝えていた。本などを見られてみればと思う。
副校長	思考科は総合的な学習の時間を少し削って実施する。
林田	社会体験はまだ続いているか。
副校長	今年度は2年生で7月に行くように計画している。
小澄	社会体験では毎年附中生はともしっかりしている。
岩津	社会体験はとてもいい。消防署・ガソリンスタンド・自衛隊などきちんと戻ってくる。3年生に散歩でよく出会う生徒がいる。今年の応援団の副団長にであるがよく声をかける。
副校長	子どもたちのようすでお気づきはないか。
小澄	今の子は大変。学校から塾。あまりにも余裕がない。心の余裕も必要。
松岡	行事を大事にして、子どもたちを体験させることは、昔は遊びで覚えた分を今は学校で体験するということだと思うが、大事な経験である。
林田	体育大会組体操の7段ピラミッドはすごかった。
松岡	他の中学校の事故は新聞に出たが、その後体育大会の練習に関する記事でいい記事ものっていた。
副校長	今年はタワーを1年生は改善した。 2年生も選抜した。3年生は全部でつくった。
岩津	今年は行進がとても良かった。ラジオ体操もとてもよい。きれいだった。
山部	附小はラジオ体操を知らない。地域のラジオ体操も行っていない。だからみんなしっかり練習していたようだ。
校長	本日はどうもありがとうございました。

(資料E-2-3-2) 教育課程、平成26年度年間行事計画

教育課程

学年	国	書	社	数	理	音	美	技家	保体	英	道	学	総合	未I	未II	未III	合計
1年	120	20	105	140	105	45	45	70	105	140	35	35	35	15	0	0	1015
2年	120	20	105	105	140	35	35	70	105	140	35	35	35	0	35	0	1015
3年	95	10	140	140	140	35	35	35	105	140	35	35	35	0	0	35	1015

週時程

1学期(4月14日～7月18日) 12週

朝	月	火	水	木	金
	職朝	職朝	集会	職朝	
1	(主任会)	(特活)	道徳		
2	(生指)	(実習)			
3					
4					
5			未創社	(研究部)	
6			未創社	(研究部)	学活

2学期A(8月26日～10月24日) 8週

朝	月	火	水	木	金
	職朝	職朝	集会	職朝	
1	(主任会)	(特活)	道徳		
2	(生指)	(実習)			
3					
4					
5			未創社	(研究部)	
6			未創社	(研究部)	学活

2学期B(10月28日～12月19日) 8週

朝	月	火	水	木	金
	職朝	職朝	集会	職朝	
1	(主任会)	(特活)	道徳		
2	(生指)	(実習)			
3					
4					
5			新教科	(研究部)	
6		2. 3年総合	新教科	(研究部)	学活

3学期(1月15日～3月19日)

1・2年8週
3年7週

朝	月	火	水	木	金
	職朝	職朝	集会	職朝	
1	(主任会)	(特活)	道徳		
2	(生指)	(実習)			
3					
4					
5				(研究部)	
6		2. 3年総合	新教科	(研究部)	学活

日課表

6時間平日日課

登校	8:15	健康観察
朝読書	8:20 ~	8:35
学活	8:35 ~	8:45 <small>0:10</small>
1限	8:50 ~	9:40 <small>0:50</small>
2限	9:50 ~	10:40 <small>0:50</small>
3限	10:50 ~	11:40 <small>0:50</small>
4限	11:50 ~	12:40 <small>0:50</small>
昼食	12:40 ~	13:10 <small>0:30</small>
昼休み	13:10 ~	13:40 <small>0:30</small>
掃除	13:45 ~	14:00 <small>0:15</small>
5限	14:10 ~	15:00 <small>0:50</small>
6限	15:10 ~	16:00 <small>0:50</small>
学活	16:05 ~	16:20 <small>0:15</small>
下校	17:00	

水曜平日日課

登校	8:15	入場
全校朝会 (生徒集会)	8:25 ~	8:45
1限	9:00 ~	9:50 <small>0:50</small>
2限	10:00 ~	10:50 <small>0:50</small>
3限	11:00 ~	11:50 <small>0:50</small>
4限	12:00 ~	12:50 <small>0:50</small>
昼食	12:50 ~	13:20 <small>0:30</small>
昼休み	13:20 ~	13:50 <small>0:30</small>
掃除	13:55 ~	14:10 <small>0:15</small>
学活	14:20 ~	14:35 <small>0:15</small>
5限	14:40 ~	
6限		16:20 <small>1:40</small>
下校	17:00	

5時間平日日課

登校	8:15	健康観察
朝読書	8:20 ~	8:35
学活	8:35 ~	8:45 <small>0:10</small>
1限	8:50 ~	9:40 <small>0:50</small>
2限	9:50 ~	10:40 <small>0:50</small>
3限	10:50 ~	11:40 <small>0:50</small>
4限	11:50 ~	12:40 <small>0:50</small>
昼食	12:40 ~	13:10 <small>0:30</small>
昼休み	13:10 ~	13:40 <small>0:30</small>
掃除	13:45 ~	14:00 <small>0:15</small>
5限	14:10 ~	15:00 <small>0:50</small>
学活	15:05 ~	15:20 <small>0:15</small>
下校	17:00	

観点 2-4 授業改善のための取組

(観点に係る状況)

平成 24・25 年度は国立教育政策研究所から「教育課程研究指定校」の指定を受け、思考力・判断力・表現力の育成を目指し、学校全体としての目標設定とそれに向けて各教科等における取組の連携を図り、それらの成果を学校として評価するための実践研究に取り組んだ。特に、「A 生徒が将来、社会生活の中で自らの人生をより豊かにし、より良い社会を作っていけるようにするために、中学校段階でどのような思考力・判断力・表現力をつけておくことが必要か、研究する。」
B 「Aの力の育成のために、教科等の間でどのような目標設定、連携、目標実現状況の評価を行ったらよいのか等について実践研究する。」ことを中心の課題に置いた。研究テーマを「未来を拓く思考力・判断力・表現力」の育成とし、平成 26 年 2 月に研究発表会を開催した。500 人の熊本県内外からの参加者を得て、全教科の授業を公開するとともに研究発表も行い、各教科の「思考力・判断力・表現力」の育成についての研究成果を広く公開することができた。

(中期計画番号 64)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

校内での授業研究を精力的にすすめ、「思考力・判断力・表現力を育成する授業づくり」についてまとまりのあるものとして、研究公開することができている。

観点 2-5 研究成果とその公表

(観点に係る状況)

研究成果の公表として、毎年本校研究発表会を開催するとともに、その成果を研究紀要としてまとめ、参加者に配布するとともに、熊本県教育委員会・熊本市教育委員会並びに全国の附属中学校へも配布している。また、教育学部と連携した取組である「新学習指導要領シンポジウム」において、実践事例等を発表している。(中期計画番号 64、66)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

研究発表会終了後も、県外の中学校からの授業参観の要請が 2 件あったり、研究紀要送付の要請が 10 件あったりと研究内容に関心を持ってもらっている。また、熊本市教育委員会との懇談会の中でも、各中学校の授業に大変参考となる取組との評価を得ている。

分析項目Ⅲ 目的に照らして、男女共同参画に向けた活動が適切に行われ、成果を上げていること

観点 3-1 目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が広く公表されているか。

(観点に係る状況)

校内に人権教育推進委員会を設け、人権教育の視点からの取組を展開している。(資料 E-3-

1-1) (中期計画番号40, 73)

(水準)

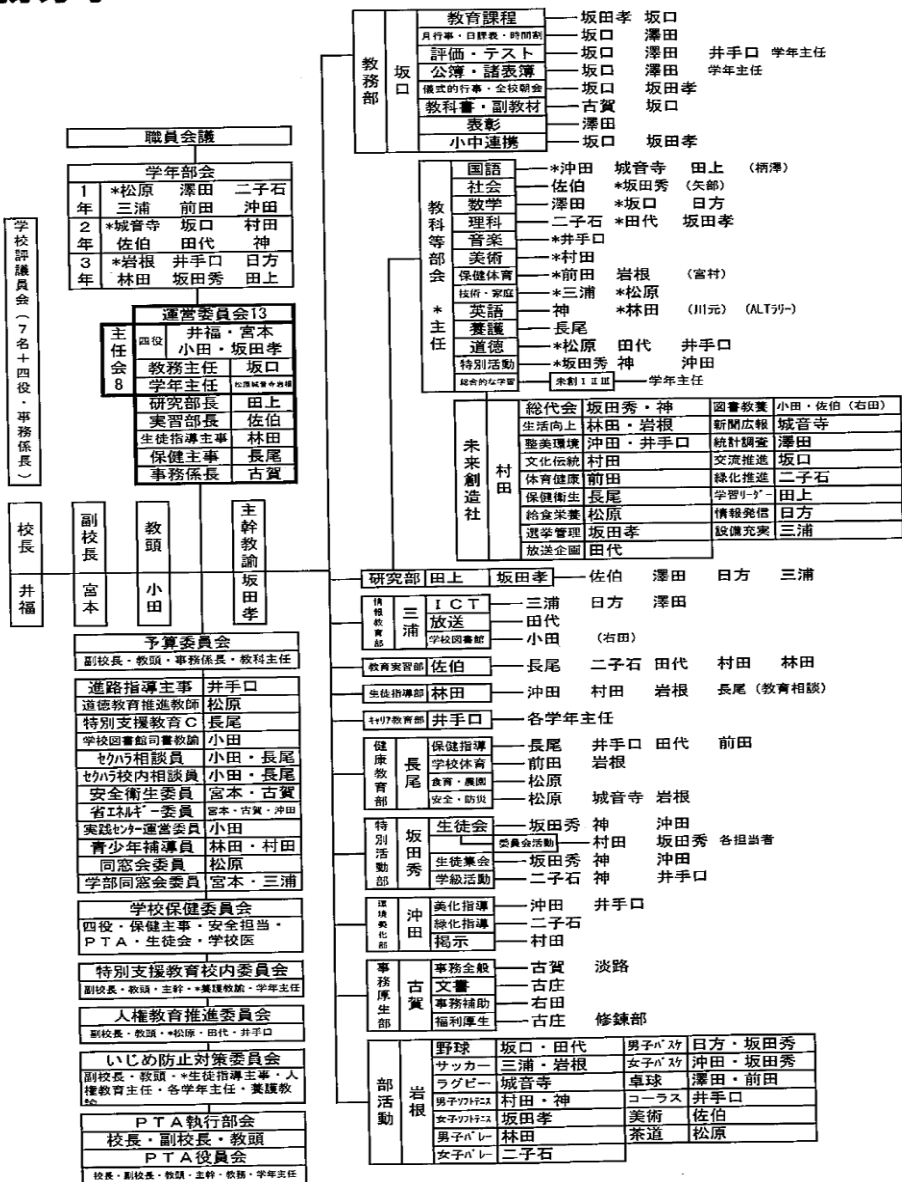
期待される水準にある。

(判断理由)

組織を設けて計画立案を行い、人権教育の視点から取組を展開している。

(資料E-3-1-1) 校務分掌

校務分掌



観点3-2 計画に基づいた活動が適切に実施されているか

(観点に係る状況)

男女共同参画に関する計画はないが、人権教育の推進計画は作成している。(中期計画番号40, 73)

(水準)

期待される水準を下回る。

(判断理由)

男女共同参画に関する計画はない。

(資料3-2-1) 人権教育・人権学習計画

平成26年 4月 日

人権教育・人権学習計画

熊本大学教育学部附属中学校 人権教育部

1 本校の人権教育目標

生徒が、中学生として、人権の意義、内容について理解するとともに、「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」ができるようになり、それが、様々な場面等で具体的な態度や行動に現れるようにする。
人権教育の指導方法に関する調査研究会「人権教育の指導法等のあり方について[第三次とりまとめ]」を参照

2 目指す生徒の姿

A[知識的側面] : ①現存する人権問題について、基本的な知識を持っている。
(主な指導の場面：特設人権学習 社会科 等)
 ②差別や不合理を解決するための手段を知っている。
(主な指導の場面：特設人権学習 道徳 等)
 B[価値的・態度的側面] : ①自分の人権だけではなく、他の人の人権にも配慮しようとする。
(主な指導の場面：特設人権学習 道徳 特別活動 等)
 ②自らの行動の中に差別や不合理がないか振り返り、自律していこうとする。
(主な指導の場面：特設人権学習 道徳 特別活動 等)
 C[技能的側面] : ①日常生活の中で他の人の人権に配慮した言動をすることができる。
(主な指導の場面：特別活動 等)
 ②差別や不合理に気づき、考え、解決のための行動を取ることができる。
(主な指導の場面：特別活動 等)

3 生徒の実態

A[知識的側面]について

・人権問題についての基本的な知識の理解については、家庭環境や地域環境、小学校時代の学習内容によって個人差がある。特に1年生に関しては、ほとんどの生徒が人権について十分な学習を受けていない、という実態が続いている。

B[価値的・態度的側面]について

・入学時は自己中心的な考え方や行動が目立つが、学校行事等を通して、他者や、クラスや学校などの集団のことを配慮した判断をする生徒が増えてくる。クラスの不正に関しても、気づき、考え、解決に向けての行動をとることができるようになってはくるが、自己中心的な考え方や行動を是正することは容易ではない。

C[技能的側面]について

・入学時は日常生活において、自己中心的な考え方や行動が目立つが、学年が進むにつれて他者に対する配慮や思いやりのある行動が見られる生徒が多くなってくる。しかし、人権感覚に欠ける事例も発生している。また、登下校時における公共交通機関でのマナー等に課題が見られ、学校以外の場での他者への配慮に欠ける生徒も多い。

4 人権学習の内容

(1) 人権学習の3年間の流れ

	人権旬間	1年	2年	3年
1学期	平成26年 6月 日() ～ 6月 日()	【身近にある差別】 「人権とは何か」を考え、身近な問題を振り返る。 A-②, B-①②	【様々な人権問題①】 就職差別 A-①, B-①②	【様々な人権問題②】 ハンセン病と差別 A-①, B-①②
2学期	平成26年 11月 日() ～ 12月 日()	【同和問題①】 部落の起こりと解放令 A-①, B-①②	【同和問題②】 水平社宣言と部落解放運動 A-①②, B-①	【自分の生き方】 「自分の生き方」について作文を書く B-①②, C-②

※ 各題材（「いじめ」「平和学習」「ハンセン病」等）については、各学年部で検討して変更することができる。その際は各学年の人権教育担当者を通じて人権教育主任に連絡をする。

(2) 1学期人権旬間の内容

	1年	2年	3年
ねらい	①身近にある差別についての学習を通して、差別の構造と、その解決方法を知る。 ②学習したことをもとに、自分たちの生活を振り返る。	①職場体験学習と関連させて、現存する仕事に対する差別や偏見を拭い去るための方法を考える。 ②学習したことをもとに、自分たちの生活を振り返る。	①現代社会に存在する様々な差別についての学習を通して、差別や不合理を解決するための手段を知る。 ②学習したことをもとに、自分たちの生活を振り返る。
事前	アンケート調査（各学年）	アンケート調査（各学年）	アンケート調査（各学年）
6 / () ①道徳	「人権」の意味や様々な人権問題について知る。 ①「人権」の意味 ②どんな人権問題があるか ③DVD「日常の人権II～気づきから行動へ 22分48秒	「父の仕事」について学ぶ ①1年時の復習・確認 ②「父の仕事」を読む ③なぜ私たちは仕事をするのかを考える。 ④資料を読んで、内容について考える。	ハンセン病について学ぶ ①ハンセン病とは何か ②ハンセン病の歴史 ③ハンセン病の差別とは
6 / () ⑥学活	身近にある人権問題についての学習をもとに、自分たちの生活を振り返る。 ①資料「『ちがひ』に種類があるの?」を読む。 ②無意識のうちに「あつてはいけないうちがひ」を「これが当たり前だ」と思い込んでいないか確認する。	「父の仕事」から学ぶ ①「いい仕事」「悪い仕事」というものはあるのかを考える。 ③職場体験を通して何が大切だったか、何を学んだか考える。	ハンセン病から学ぶ ①熊本県のハンセン病問題 ②問題の本質 ③ハンセン病問題の今
事後	①朝の会、帰りの会を通じて取り上げて話をする。 ②家庭と連携を図る。	①朝の会、帰りの会を通じて取り上げて話をする。 ②集会で一人ひとりの思いを発表する。 ③家庭と連携を図る。	①朝の会、帰りの会を通じて取り上げて話をする。 ②集会で一人ひとりの思いを発表する。 ③新聞などメディアから伝えられる内容を報道する

(3) 2学期人権旬問の内容

	1 年	2 年	3 年
ねらい	①部落の起こりについて、身分制度・解放令までの歴史的な流れをつかみ部落差別が作られたものであることを知る。 ②学習したことをもとに、自分たちの生活を振り返る。	①部落解放運動についての学習を通して、差別や不合理的な解決するための手段を知る。 ②学習したことをもとに、自分たちの生活を振り返る。	①進路選択に関し、自分自身の進路に誇りを持ち、互いの相違を認め受容する。 ②自分たちの生活を振り返り、感謝の念を持つ。
事前	アンケート調査 (各学年)	アンケート調査 (各学年)	アンケート調査 (各学年)
11/ () ①道徳	「同和問題」について知る ①ビデオ「にんげんの詩」を視聴する。 ②部落の起こりについて身分制度・解放令までの歴史的な流れをつかみ、部落差別が作られたものであることを知る。	水平社宣言について学ぶ ①1年時の復習・確認 ②水平社宣言について ③解放令と水平社宣言の違い	自分の進路に誇りを持って進路決定をしていくことの大切さに気づく。 ①私たち (自分) はなぜ高校に行くのかを考える。 ②「いい高校」とはどんな高校かを考える。
12/ () ①道徳	自分たちの生活を振り返る ①資料「自分以下を求め心」を読む。 ②これまでの学習をもとに、自分のこれからの生き方についてメッセージを書く。	水平社宣言から学ぶ。 ①水平社宣言を出した理由 ②宣言の内容を考える。 ③人々の願いや思いを知る。	進路決定をする上で大事にすべきことは何かを考える。
事後	①朝の会、帰りの会を通じて取り上げて話をする。 ②集会で一人ひとりの思いを発表する。 ③家庭と連携を図る。	①朝の会、帰りの会を通じて取り上げて話をする。 ②集会で一人ひとりの思いを発表する。 ③家庭と連携を図る。	①朝の会、帰りの会を通じて取り上げて話をする。 ②卒業式に両親や友人、恩師に感謝の気持ちを綴らせて発表する。

※ その他の活動……①生徒会執行部：全校集会で提言 ②図書教養課：人権コーナー設置
②文化伝統課：標語・名言掲示 ③放送企画課：人権図書紹介 等

(出典：人権教育・人権学習計画)

観点3-3 男女共同参画基本方針等の趣旨に照らし、男女共同参画の取り組みを実施しているか。

(観点に係る状況)

人権教育の視点から、取組を推進している。(中期計画番号40, 73)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

職員男女ともに、それぞれの校務分掌のもとで職務に精一杯あたり、力を発揮している。

4. 質の向上度の分析及び判断

(1) 分析項目Ⅰ 教育研究支援

「重要な質の変化あり」

改善、向上している。

(記述及び理由)

毎年の研究発表会の実施において県内外から500名の参加者があるとともに、研究紀要の発行も行っている。

本校の各教科の職員が積極的に学部の教員と連携しながら、教育実習の充実、連携した研究の推進に努めている。また、学部の教員と連携した研究の推進や研究成果の公表、研究紀要の発行、地域の教育研究への貢献を行っている。

(2) 分析項目Ⅱ 初等中等教育

質を維持している。

(記述及び理由)

生徒達の勉学に対する姿勢や進学状況また部活動等の生徒の活躍状況も良好である。また、学校行事に対する保護者の参加も多く、また生徒の頑張る姿を見ての感想も好評のものがほとんどである。

校内での授業研究を精力的にすすめ、「思考力・判断力・表現力を育成する授業づくり」についてまとまりのあるものとして、研究公開することができている。

(3) 分析項目Ⅲ 目的に照らして、男女共同参画に向けた活動が適切に行われ、成果を上げていること

質を維持している。

(記述及び理由)

人権教育の視点から男女共同参画をとらえ、人権教育の推進計画を作成している。

Ⅲ 管理運営の領域に関する自己評価

1. 管理運営の目的と特徴

熊本大学教育学部附属中学校は、国立大学法人熊本大学の教育学部に附属して設置された学校であって、公立中学校と同様に教育基本法や学校教育法に基づく中等普通教育を行うとともに、次の使命をもっている。

○教育研究の学校である。

大学と共同で教育の理論的・実証的研究を行う。そのために、本校独自の教育計画による教育活動を行うことがある。

○教育実習の学校である。

教育学部生の教育実習の実施及びその指導にあたる。

○地域の学校の研究に協力する学校である。

教育研究の場として、あるいは研究会の推進役として地域社会の中等教育の振興に寄与する。

【想定する関係者とその期待】

想定される関係者として、まず在籍生徒の保護者がある。生徒達全員が高校進学希望であり、その先の大学までも視野に入れて勉学に励んでいる。生徒達及び保護者の学力向上への期待は大変強いものがある。また、勉学面だけでなく社会性や人間性を高めてもらいたいとの保護者の願いも強く、学校行事、部活動への期待も高い。

さらに、本校の卒業生も母校に対する愛情が深く、毎年同窓会が大規模に行われており、同窓生だけでなく、地域社会からの期待の声も高い。

次に、地域の教育委員会が関係者としてあげられる。熊本県教育委員会、熊本市教育委員会との人事交流を行っており、教員の研修面でのステージの一つとしての本校への派遣が位置付けられている面もあり、教科指導・教科研究の力を職員に就けて欲しいという期待とともに、本校の職員が熊本県、熊本市の各教科のリーダーとして活躍して欲しいとの願いがある。

2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

【優れた点】

平成20年に校舎の耐震工事及び全面改修が完了し、校舎はきれいに整備されている。また、平成25年に学校に対する脅迫事案が発生し、その対策として防犯カメラ、街灯、門扉の改修等を行い、安全面での施設が充実した。また、主任会を毎週月曜日に、校内運営委員会及び職員会議を毎月1回実施して、管理面・運営面の確認・徹底を行っている。

【改善を要する点】

体育館も同年に耐震工事のみが行われているが、フロア一面、ステージ、窓、ドア部分等は以前のままであり、老朽化が激しい。また、本校の特色の一つである学校の教育活動の一環としての部活動に係る屋外部活動の部室・外トイレ・給水場等がなく整備が是非とも必要である。加えて、プールも老朽化が進んでおり、本体からの水漏れ、男女更衣室・トイレが老朽化が激しく、使用に耐えない状況となっている。また、危機管理体制として「学校危機管理マニュアル」に基づいた不審者対策訓練、地震・火災避難訓練を実施している。毎年の危機管理マニュアルの見直しが必要である。

3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目Ⅰ 管理運営体制及び事務組織が適切に整備され機能していること

観点1-1 管理運営のための組織及び事務組織が、適切な規模と機能を持っているか。また、危機管理等に係る体制が整備されているか。

(観点に係る状況)

管理運営のための組織は、校長、副校長、教頭、主幹教諭、事務係長のもとで校務分掌に基づき、報告・連絡・相談が随時行っており、また、主任会を毎週月曜日に、校内運営委員会及び職員会議を毎月1回実施して、管理面・運営面の確認・徹底を行っている。また、危機管理については、危機管理マニュアルを作成し、年度当初に全職員で確認している。個人情報保護については、保護者に年度当初に確認を取り、ホームページへ・学級通信等への写真・氏名・作品の記載等について可否を問うている。

(資料E-1-1、Z-1-1-1～Z-1-1-2) (周期計画番号64)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

校務分掌において業務の分担と責任が明確にされており、また、危機管理についてもマニュアルにもとづく訓練を実施している。

(資料Z-1-1-1) 平成25年度学校危機管理マニュアル

平成25年度
**学校危機管理
マニュアル**

熊本大学教育学部附属中学校

平成25年4月1日

危機管理マニュアル		も く じ		熊本大学教育学部附属中学校	
I	学校事故にかかわる危機管理	-----			1
1	学校事故とは				
2	危機管理における学校事故の分類				
3	原因となるもの				
4	危機管理体制の構築と予防策				
II	児童・生徒の事故発生時の対応（基本的対応）	-----			2
III	生徒指導上の問題発生時の対応	-----			3
1	問題行動への基本的対応				
2	不登校への対応				
3	予防や対応上での留意点				
IV	体調発生時の対応	-----			4
1	体調の起こりやすい理由について				
2	体調の起こりやすい状況について				
3	体調事故発生後の対応				
4	防止対策				
V	セクシャルハラスメント問題発生時の対応	-----			5
1	基本的対応				
(1)	相手が大人の場合				
(2)	相手が児童生徒の場合				
2	予防策				
3	セクシャルハラスメント防止の申し合わせ事項の例				
4	相談対応上の留意点				
VI	職員の事故発生時の対応	-----			6
1	基本的対応				
2	交通事故の場合				
3	予防策				
4	職員事故防止（含交通）事故防止）申し合わせの例				
VII	学校施設及び器物毀損事故、盗難事故発生時の対応 （含風水害による場合）	-----			7
1	基本的対応				
2	学校火災発生対応マニュアル	-----			8
3	学校施設及び器物毀損事故の場合	-----			9
4	盗難事故防止の申し合わせ事項及び対応策				
5	風水害発生の場合				
VIII	不審者の侵入への対応	-----			10・11
1	来訪者の確認				
2	校内での安全確保の体制づくり	-----			12
3	学校事故時の安全確保				
4	不審者情報に係る関係機関との連携				
IX	毒物や不審な郵便物への対応	-----			13
1	毒物管理				
2	不審な郵便物				
X	その他への対応	-----			14
付録	関係機関等の連絡先				

(出典：平成25年度学校危機管理マニュアル)

(資料Z-1-1-2) 避難訓練 (不審者対策) 実施計画

避難訓練 (不審者対策) 実施計画

平成26年4月24日 (金)
熊本大学教育学部附属中学校

1 目的

- (1) 不審者侵入という緊急時における避難経路の確保と対応, 安全に避難する心構えと態度を身につける。
- (2) 教職員と生徒たちの防犯意識を高める。
- (3) 不審者侵入に対して, 京町事業場 (附属小・中学校・実践センター) 全体での連携を図り, 児童生徒の安全確保に当たることができるようにする。

2 期日

平成26年5月1日 (木) 第2校時 9:50~10:40

※附属小との合同訓練・雨天時は体育館へ避難

3 実施方法

(1) 想定

附属小学校敷地内に不審者が侵入し, 中学校校舎に向かう可能性があり, 校舎内において不審者への対応をする場合。

(2) 指令

指令①「校長先生が『附属小』でお待ちです。」「[支援要請] →事務室前で役割分担

指令②「(避難訓練情報です。)これから緊急集会を開きますので, 運動場北門前に集合してください。」「[避難指示]

4 訓練計画および内容

時間	担当	訓練計画・内容
9:52		凶器を持った不審者が京陵中側のフェンスを乗り越えて附属小へ侵入。附属小職員が対応する。
9:55	教頭	附属小へ不審者が侵入したとの連絡を受け, 応援を要請する。 校内放送 (指令①)「校長先生が『附属小』でお待ちです。」 附属中事件対応班はさすまたや防護用棒を持ち, 附属小児童の避難経路の安全を図るために, 附中体育館と校舎の間は2名 (田上・佐伯) を, いこいの森側入り口は2名 (田代・三浦), ロータリー前1名 (二子石) を配置し, 附属小生の避難が完了するまで不審者や進入しようとする車への対応にあたる。班長日方は現場指示。
10:00	教頭	※さすまたや防護用棒:事務室(4本)・保健室(2本)に設置 附属小から不審者を(小会議室に)確保したとの連絡が入る。 校内放送 (指令②)「これから緊急集会を開きますので, 西側から運動場北門前に集合してください。」 各担当, または近くにいる職員からクラスへ指示を出し避難をする。 事件対応班は避難経路の要所に立ち, 警戒に当たる。 集合後, 人員確認を行い, 報告をする。 ●担任・総代・副総代 → 学年主任 → 教頭 → 副校長 → 校長 「〇年〇組 男子〇名 女子〇名 欠席〇名 合計〇名 異常ありません。」 係からの指導
10:07	警察	講評[5分] (まず附中生に講評の後, 第2グラウンドの附属小生に講評)
10:12	校長	講評[3分]
10:18		諸連絡及び訓練終了 (3年→2年→1年の順で保健室前へ)
10:25		第二グラウンドにて職員一同, 警察の方から話を聞く。[10分]

熊本北警察署 生活安全課 少年第一係スクールサポーター TEL323-0110

(出典: 避難訓練 (不審者対策) 実施計画)

観点1-2 構成員（教職員及び生徒）、その他学外関係者の管理運営に関する意見やニーズが把握され、適切な形で管理運営に反映されているか。

（観点に係る状況）

各学期の反省を生徒・教職員ともに行い、各校務分掌で集約して、その対応策を協議し、職員会議で報告・検討している。また、年に2回学外関係者である学校評議員会の全体会を開催し評議員の意見を聴取している。その中では、生徒の登下校時のマナーに関して、「道に広がって歩行している。」との指摘があり、生徒指導部会で報告し、生徒会執行部の取組、全校朝会での指導等に生かし、改善が見られるようになった。毎月のPTA役員会にも校長、副校長、教頭、主幹教諭が参加し、保護者の意見等も聞いている。さらに各学期2回行われる教育後援会の理事会にも校長、副校長、教頭、主幹教諭が参加して、教育後援会からの意見も聞いている。（再掲資料E-2-3-1）（中期計画番号64）

（水準）

期待される水準にある。

（判断理由）

学校内で検討し、対応できるものについては、その都度改善を行っている。校内だけでは解決できない事柄や予算が伴うこと等については、学部附属運営委員会等で協議をおこなってもらっている。

(再掲資料E-2-3-1) 平成26年度 第1回学校評議員会懇談・協議記録

平成26年度 第1回学校評議員会 懇談・協議
記録 (坂田孝久)

【参加者】 学校評議員 松岡謙二・岩津昭夫・林田淳子・小澄正敬・山部治子【敬称略】
学校職員 学校長・副校長・教頭・主幹教諭・事務係長
【欠席者】 岡本良介【敬称略】

10:50～

副校長

1 学校からの説明

- (1) 学部、附属学校運営委員会の資料（資料：「熊本大学」）より
附属学校に関する目標を達成するための措置について
- 大学・附属学校間の組織的な連携
 - 教育実習のカリキュラム開発
 - 県・市教委との連携
- (2) 資料をもとに説明（資料：学校からの説明資料）より
- ① 本年度の取組の重点事項について
- ア 研究の推進及び授業の改善・提案
- ・ 本年度から4年間の文部科学省の研究開発学校の指定を受けることになった。現在学習指導要領の枠を超えて新教科を作る研究を進めているところである。
 - ・ 次の学習指導要領の改訂の資料、またはもう一つ先の学習指導要領の資料となる。
 - ・ 本年度は9月に研究発表会を行って、その後も研究開発の資料を作成をしていく。
 - ・ 研究発表会では安彦先生を講師としてお招きする予定である。また、研究図書を発行する予定である。
 - ・ さらに、60インチのTVモニターを設置予定である。
- イ 教育実習の検討と充実
- ・ 今年度4年次実習Ⅱにおいて行事観察を設定した。
- ウ 安全な学校作りの推進
- ・ 脅迫事案の驚異が続いている。心配なのは四附交流会の前である。
 - ・ 各行事で入構チェックを厳しくする。
 - ・ 名札の着用をお願いしている。
 - ・ 災害用の備蓄倉庫の設置を行った。
 - ・ 響き合いメールについては、本年度も引き続き情報発信及び管理を行っていく。
 - ・ 体育館改修について、及び運動場のトイレ・水道の設置の要望を引き続き行いたい。

- エ 小中連携の取組の推進
 - ・ 昨年度から質の高い熊大方式の小中連携を取り組んでいる。
 - ・ そうじについても小中連携の取組を行う予定である。
 - ・ 常勤講師について学部に要請をしているところである。
- オ 豊かな心の育成
 - ・ スクールカウンセラーは保健センターからカウンセラーお一人を、ユアフレンドはお二人を派遣いただくことになった。
 - ・ 学びの交流会については、本年度3年生対象に行う。
 - ・ 先輩と夢を語る会に向けてオリンピック選手の中川選手に話を進めているところである。
 - ・ いじめの防止についての取り組みについては、本校では、いじめアンケートを行い対応している。現在、いじめを受けている訴えているという生徒はいない。
- カ 学校及び生徒の様子について
 - ・ 体育大会のご出席ありがとうございました。
 - ・ 授業も集中している様子をごらんいただけただけではないかと思う。
 - ・ 現在、保健室登校（2年・3年 男女1・1）、別室登校（男子1名 図書室）、不登校傾向の生徒が一人いる状況である。
- キ その他
 - ・ 今後ご案内する行事として、研究発表会（9/14）、附中文化の日（10/17）、第2回学校評議員会（2/26）、平成26年卒業式（3月）がある。卒業式は、先日入試の日程が発表されたので、決まってからお伝えする予定である。
 - ・ 学部・附属の運営協議会は松岡先生に本年度もお願いしたい。

松岡 顔も割と知っているので、お受けします。

2 質疑応答・意見交換

林田 4年間の指定とは何か。

副校長 文部科学省の研究開発学校の指定を受けた。これは教育課程の法的な縛りをうけない。今年度は全国で10程度の学校が指定を受けている。附属学校で指定を受けているのは9校。

林田 それは先生方はたいへんなのか。

副校長 教科書が何もないので、計画して作成し授業を行い、報告を出すということになる。なかなかこの研究指定は受けられないので職員にはいい経験になるのではないかと思う。

松岡 教科とは何か。

副校長 思考科（仮称）である。

観点1-3 管理運営のための組織及び事務組織が十分に任務を果たすことができるよう、研修等、管理運営に関わる職員の資質向上のための取組が組織的に行われているか。

(観点に係る状況)

副校長、教頭については熊本市教育委員会及び熊本市の校長会、教頭会が主催する研修会等に参加している。また事務職員は、人事管理研修、共済の研修等に参加し、職責に応じた研修を行っている。加えて学内で行われている情報セキュリティ研修・メンタルヘルス研修等への職員参加を行っている。(中期計画番号64)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

研修等で得た知識や技能を生かし、職務を遂行できている。

分析項目Ⅱ 活動の総合的な状況に関する自己点検・評価が実施されているとともに、継続的に改善するための体制が整備され、機能していること

観点2-1 活動の総合的な状況について、根拠となる資料やデータ等に基づいて、自己点検・評価が行われているか。

(観点に係る状況)

各学期ごとの反省や年間の活動の反省を行っている。また、各職員が学校教育目標をもとに、担当職務の目標を立てて自己評価を行っている。(資料Z-2-1-1)(中期計画番号64)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

自己評価については、具体的数値目標を評価項目別設定し、それに基づき評価している。また、確実に学期反省を実施し、反省点として特筆すべきものは、行事の削減・見直し等、次年度の計画・実施に生かしている。

(資料Z-2-1-1) 自己評価シート

平成 年度 自己評価シート【教諭】

補助者：
1次評価者：
2次評価者：

所属	学校				氏名	
通し番号	性別	男・女	年齢	歳	教職勤務年数	年月

1 自己目標の設定・達成度評価

評価項目	担当職務の目標と評価		
学習指導	現状		
	目標		
	具体的な手立て		
	自己評価	段階評価	記述による自己評価
児童生徒指導	現状		
	目標		
	具体的な手立て		
	自己評価	段階評価	記述による自己評価
校務分掌他	現状		
	目標		
	具体的な手立て		
	自己評価	段階評価	記述による自己評価

2 副校長全体所見

平成 年 月 日 副校長氏名

(出典：自己評価シート)

観点2-2 活動の状況について、外部者（当該大学の教職員以外の者）による評価が行われているか。

（観点に係る状況）

学校評議員会の全体会を年に2回実施するとともに、各行事には来校いただき生徒達の様子を見てもらい、意見・感想をいただいている。また、2回目の評議員会全体会時には、学校に対する評価も重点取組事項に沿ってしてもらっている。（中期計画番号64）

（水準）

期待される水準にある。

（判断理由）

外部評価として学校評議員からいただいた意見は、次年度の教育活動に反映すべく対策を講じるための検討会を校内の運営委員会で行っている。

観点2-3 評価結果がフィードバックされ、改善のための取組が行われているか。

（観点に係る状況）

各学期の反省、学校評議員会、毎月のPTA役員会教育後援会の理事会等で出された意見については、検討すべき内容について校内の運営委員会、職員会議で検討するとともに、必要に応じて学部・附属運営委員会で取り上げていただき検討してもらっている。（中期計画番号66）

（水準）

期待される水準にある。

（判断理由）

職員の自己評価、外部の学校評議員、保護者による評価・意見等を具体的に取り上げて協議している。学外関係者である学校評議員会の全体会を開催し評議員の意見を聴取している。その中では、生徒の登下校時のマナーに関して、「道に広がって歩行している。」との指摘があり、生徒指導部会で報告し、生徒会執行部の取組、全校朝会での指導等に生かし、改善が見られるようになった。

分析項目Ⅲ 教育研究活動等についての情報が、適切に公表されることにより、説明責任が果されていること。＜教育情報の公表＞

観点3-1 目的が適切に公表されるとともに、構成員に周知されているか。

（観点に係る状況）

本校のホームページ、研究紀要、研究発表会等で教育研究の目的を公開している。また、本校入試説明会、保護者会等で本校の教育活動等について説明を行っている。（中期計画番号64）

（水準）

期待される水準にある。

（判断理由）

毎年計画的にまた、種々の機会をとらえて情報の公開をおこない、保護者等からは教育活動に理解を得ている。

(資料Z-3-1-1) 熊本大学教育学部附属中学校ホームページ

熊本大学教育学部附属中学校

熊本大学教育学部附属中学校
Junior High School Attached to Faculty Education, Kumamoto University

熊本大学教育学部

- 熊大附中について
- 年間行事と学校の様子
- 職員紹介
- 生徒活動
- 研究について
- 入試について

保護者のみなさまへ
FOR PTA

同窓会のみなさまへ
FOR OB

インフォメーション Information

■東京同窓会のページは[こちら](#)です。

★9/14(日) 平成26年度研究発表会 400名を超えるご参加をいただき、有意義な1日を送ることができました！

参加者の皆様、ご協力いただいた保護者の皆様、ありがとうございました！当日のスナップです。

 2年英語・城音寺教諭	 3年社会・坂田秀教諭	 1年数学・澤田教諭	 1年理科・二子石教諭
 2年英語・神教諭	 3年音楽・井手口教諭	 2年保体(女子)・前田教諭	 1年技術・三浦教諭
			

<http://www.kumamoto-fuchu.ed.jp/>[2014/09/26 16:56:52]

(出典：熊本大学教育学部附属中学校ホームページ)

観点3-2 入学者受入方針、教育課程の編成・実施方針が適切に公表・周知されているか。

(観点に係る状況)

生徒募集要項を本校ホームページに掲載するとともに、生徒募集説明会を開催し(資料Z-3-2-1)、入学者の受け入れ方針について詳しく説明している。また、教育課程の編成・実施については学校要覧を作成し、関係者に配布している。(中期計画番号64)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

生徒募集説明会、保護者会また学校案内、ホームページ等で説明・公表を行い、保護者から理解を得ている。

(資料Z-3-2-1) 平成26年度生徒募集説明会



平成 26 年度生徒募集説明会

熊本大学教育学部附属中学校

第1回 平成 25 年 11 月 2 日 (土) 14:30 ~ (受付: 14:00 ~)

- ・ 対象 志願者の保護者(志願資格必須)及び志願者本人(希望者)
- ・ オープンスクールも併せて行います。
- ・ 会場 本校体育館

第2回 平成 25 年 11 月 5 日 (火) 14:30 ~ (受付: 14:00 ~)

- ・ 対象 第1回生徒募集説明会に出席できなかった保護者
- ・ 説明内容は第1回と同じです(オープンスクールは行いません)。
- ・ 会場 本校視聴覚室(西棟2階)

※ 志願者の保護者の生徒募集説明会への出席がない場合は、志願資格はないものとします。

※ 出願に必要な書類等を配付します。説明会以外での配付はしません。





【問い合わせ先】
〒860-0081 熊本市中央区京町本丁5-12
PHONE 096-355-0375 (代表)
F A X 096-355-0379
www.kumamoto-fuchu.ed.jp

※ 事前申込の必要はありません。
※ 上履き、スリッパを持参ください。
※ 本校グラウンドを駐車場として開放します。

(出典：平成26年度生徒募集説明会資料)

観点 3-3 教育研究活動等についての情報（学校教育法施行規則第 172 条に規定される事項を含む。）が公表されているか。

（観点に係る状況）

研究成果の公表として、毎年本校研究発表会を開催するとともに、その成果を研究紀要としてまとめ、参加者に配布するとともに、熊本県教育委員会・熊本市教育委員会並びに全国の附属中学校へも配布している。また、教育学部と連携した取組である「新学習指導要領シンポジウム」において、実践事例等を発表している。

（水準）

期待される水準にある。（中期計画番号 6 4， 6 6）

（判断理由）

研究紀要は、全国の国立附属中学校・熊本県教育委員会・熊本市教育委員会・熊本県内各教育事務所等に毎年配布し、研究成果の普及に努めている。

分析項目Ⅳ 教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され、有効に活用されていること。＜施設・設備＞

観点 4-1 教育研究活動を展開する上で必要な施設・設備が整備され、有効に活用されているか。また、施設・設備における耐震化、バリアフリー化、安全・防犯面について、それぞれ配慮がなされているか。

（観点に係る状況）

平成 20 年に校舎の耐震工事及び全面改修が完了し、校舎はきれいに整備されている。また、バリアフリーもなされている。

平成 25 年に学校に対する脅迫事案が発生し、その対策として防犯カメラ、街灯、門扉の改修等を行い、安全面での施設が充実した。

体育館も同年に耐震工事のみが行われているが、フロア一面、ステージ、窓、ドア部分等は以前のままであり、老朽化が激しい。また、本校の特色の一つである学校の教育活動の一環としての部活動に係る屋外部活動の部室・外トイレ・給水場等がなく整備が是非とも必要である。加えて、プールも老朽化が進んでおり、本体からの水漏れ、男女更衣室・トイレが老朽化が激しく、使用に耐えない状況となっている。（中期計画番号 6 4）

（水準）

期待される水準を下回る。

（判断理由）

体育館の老朽化とフロア等において危険が推察される。

また、プール及び更衣室・トイレについては使用が困難な状況である。

観点 4-2 教育研究活動を展開する上で必要な ICT 環境が整備され、有効に活用されているか。

（観点に係る状況）

校内 LAN については整備されている。また、パソコン室に設置してある生徒用パソコンが古く、インターネット接続が約半数しかできない。メンテナンスが十分にできていない状況がある。

教室で授業する場合のノート型パソコンは使えるものがない。

さらに電子黒板も配置されておらず、公立の他中学校と比べかなり整備状況が送れている。

教育後援会から補助で大型テレビの導入をしている。（中期計画番号65）

（水準）

期待される水準を下回る。

（判断理由）

近隣の公立中学校と比べかなり厳しい状況であり、教育研究の推進の観点から、早急の設備の充実が望まれる。セキュリティ管理については、学内研修を職員が受けており、管理上の問題はない。

観点4-3 図書館が整備され、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。

（観点に係る状況）

学校図書室が整備され、50名が読書できるスペースが確保されている。生徒図書も充実している。（資料Z-4-3-1）（中期計画番号64）

（水準）

期待される水準である。

（判断理由）

計画的に図書の整備を行っている。

（資料Z-4-3-1）学校図書館整備方針

熊本大学教育学部附属中学校

学校図書館整備方針

「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（第三次）」（平成25年5月17日）を参考に、学校図書館の整備を進める。

- 1 学校図書館の資料、施設等の整備・充実
 - (1) 「学校図書館図書資料整備方針」による資料の充実及び学校図書館図書標準の達成
 - (2) 読書センター、学習資料センターとしての良好な環境の創出
 - (3) 図書資料の適切かつ効率的な配置・管理・点検
- 2 学校図書館の情報化
 - (1) コンピュータの整備
 - (2) 図書情報のデータベース化
 - (3) 学校図書館利用状況のデータの集約・活用
- 3 司書教諭、学校司書（事務補佐員）等の活用
- 4 未来創造社図書教養課の自主的・協同的な活動による学校図書館の利活用の推進

熊本大学教育学部附属中学校

学校図書館図書資料整備方針

- 1 読書センターとして必要な情操教育、一般教養等の観点から図書資料を配置する。
- 2 学習資料センターとして必要な教科の学習内容、教育課程、本校研究の方向等の観点から図書資料を配置する。
- 3 生徒・職員の要望や利用度を集約し、図書資料の配置の参考とする。
- 4 新聞等、学習活動を支援する各分野の主要な逐次刊行物を配置する。
- 5 その他、本校教育活動の教育効果を高めるために適切な図書資料を、分野・領域のバランスや生徒の発達段階を考慮して配置する。

（出典：学校図書館整備方針）

4. 質の向上度の分析及び判断

(1) 分析項目Ⅰ 管理運営体制及び事務組織が適切に整備され機能していること
質を維持している。

(記述及び理由)

校務分掌において業務の分担と責任が明確にされており、また、危機管理についてもマニュアルにもとづく訓練を実施している。平成21年度以降見直しを必要に応じ行っている。

学校内で検討し、対応できるものについては、その都度改善を行っている。校内だけでは解決できない事柄や予算が伴うこと等については、学部附属運営委員会等で協議をおこなってもらっている。

(2) 分析項目Ⅱ 活動の総合的な状況に関する自己点検・評価が実施されているとともに、継続的に改善するための体制が整備され、機能していること
質を維持している。

(記述及び理由)

確実に学期反省と自己評価を実施している。

外部評価として学校評議員からいただいた意見は、次年度の教育活動に反映すべく対策を講じるための検討会を校内の運営委員会で行っている。

平成21年度に比べ、行事の精選、授業時数確保の方策、危機管理等に対する対応策をとることができた。

(3) 分析項目Ⅲ 教育研究活動等についての情報が、適切に公表されることにより、説明責任が果たされていること。〈教育情報の公表〉
質を維持している。

(記述及び理由)

本校のホームページ、研究紀要、研究発表会等で教育研究の目的を公開している。

研究発表会の参加者も広く全国からあり、また、研究発表会終了後も研究視察等の要請がある。

(4) 分析項目Ⅳ 教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され、有効に活用されていること。〈施設・設備〉
質を維持しているとはいえない。

(記述及び理由)

体育館の老朽化とフロア等において危険が推察される。また、プール及び更衣室・トイレについては使用が困難な状況である。

ICT 環境においては、近隣の公立中学校と比べかなり厳しい状況であり、教育研究の推進の観点から、早急の設備の充実が望まれる。